



みんながつながり 「夢が育つ学校」に

# 国立二小だより

平成29年6月30日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

## 子供の成長を促す秘密

啐啄同時（そったくどうじ）

校長 小林 理人

様々な活動で見せる子供たちの真剣な表情や、先生や友達からの賞賛に対する子供たちの笑顔は、子供たちの満足の証であり、わたしたち教職員の宝物です。

「日光で出会った人たちや周りの人たちに感謝の気持ちをもつことと仲間と団結することのよさを学びました。」

これは、日光移動教室を終えた後に書いた作文の一節です。6年生は、「心を合わせてみんなで作ろう 最高の思い出」という目標をつくり、日光移動教室に臨みました。そして、担任を中心に私たち教員も「子供たちが、協力して主体的な行動をし、自分たちの力で学習や生活をする事」を目標とし、指導にあたりました。

最終日の帰校式では、6年生の代表が3日間の報告をしたり、引率した教員一人一人が子供たちのがんばったことをそれぞれの言葉で伝えたりしました。そして、日光移動教室を大成功で終えた達成感をみんな一緒に味わいました。また、帰宅後にご家庭でかけていただいた労いや賞賛の言葉も、子供たちの周りへの感謝や達成感につながったようです。その気持ちが作文にも表れていました。



「啐啄同時（そったくどうじ）」という言葉があります。「啐」（そつ）は、卵の中にいる雛が、内側から声を発して親鳥に殻から出たいという意思を伝えることを表しています。また、「啄」（たく）は、親鳥が外側から殻をつついて雛が殻を破って出るのを助けることを意味します。「啐啄同時」は、殻を破って外に出る瞬間の親鳥と雛の気持ちの様子から、何かをするのに絶好のタイミングを表す言葉として使われています。

私たちは、この「啐啄同時」を、指導の場面で大切にしています。それは、成長させたいという教師の思いと、成長したいという子供の思いがひとつになったときに、子供たちの成長につながる学びが成立すると考えているからです。また、子供たちには気付にくい自分自身の成長を、私たちが価値付けたり、認めたりする評価や声掛けも、子供たちの成長や飛躍には欠かすことができないことです。そして、指導と同じように「啐啄同時」が示している絶好のタイミングが大切なポイントとなります。

日光移動教室は、この「啐啄同時」がうまく働いた取組になりました。

1学期、子供たちは新しい学年に進級し、一人一人やクラス全体の目標やめあてを決めました。そして、日々の授業や学級での活動、遠足や移動教室、なわとび旬間などの行事を通して、目標やめあての達成に向けて努力をしてきました。

そこで、7月は「成長」という言葉を意識していきます。そして、子供たちが「できるようになったこと」や「レベルアップしたこと」に気付くようにしたり、それを認め励ましたりすることで、成長、飛躍へとつなげる月にしていきます。ご家庭でもこの絶好のタイミングを生かしていただき、成長、飛躍につながる「啐啄同時（そったくどうじ）」の言葉かけをお願いいたします。

